

第45回ユニセフ研修会
2012.1.26.(木)

こどもの育ちに影を落とす
日本社会の経済格差
～親の育て方は経済格差を是正する鍵～

内田伸子
(お茶の水女子大学)
uchida.nobuko@ocha.ac.jp

スクリプト

- ・想像力の発達
想像 経験 新しいものが付け加わる
- ・学力格差は幼児期から始まるか
幼稚園卒 > 保育所卒は本当か？
- ・子どもの育て方は経済格差を是正する鍵
子どもを伸ばす援助・ことばかけ

・想像力の発達
五官を使った体験の大切さ

想像力 ↔ 生きる力

極限状況下での内面化の傾向が

著しくなる ↔ 想像力

フランクフル

『夜と霧 ドイツ強制収容所の体験記録』
霜山徳爾訳(1965)みすず書房
111-112頁

第一次認知革命(生後10ヶ月)

・頭の中に起こる変化

1. イメージの誕生
見立て遊び, 延滞模倣
2. 記憶し, 思い出せるようになる
大脳辺縁系の海馬のネットワーク化
3. 物理認識「モノの同一性認識」が始まる
「モノは見えなくなっても存在する」という認識

・外からわかる変化

「社会的参照」; 他者に問い合わせる

社会的参照をする子, しない子

社会的参照 *Social Referencing*

- (1) 生後10ヶ月の赤ちゃんとお母さん100組
プレイルームで遊んでもらう
犬型ロボットを提示 赤ちゃんびっくり
お母さんの顔を見上げる子 62名
見上げない子 38名

- (2) 1歳半で同じ実験を繰り返した
62名はお母さんのところに駆け寄る
38名はお母さんに近づくが
目は犬型ロボットに釘付け

(向井, 2003)

物語型 vs. 図鑑型

「気質」(対人対物システム)……個性

62名

60%が挨拶、感情表現語
40%は名詞

→「物語型」
人間関係に敏感

38名

95%が名詞 →「図鑑型」
5%が動詞 モノの因果的
成り立ちに敏感

(内田・向井, 2008)

想像の素材は経験(体験)

想像は創造の泉

- ・未来を思い描く素材 = 経験(体験)
- ・想像 経験

経験を複合したり脈絡をつけるとき
何か新しいものが付け加わる

↓
創造の可能性

2歳5ヶ月

うさタン、
ピョンピョン



3歳8ヶ月

うさこちゃんが、
お月さんを見ながら、
楽しくダンス
していました

イテエー、
ころんだよ、
石(絵の石をさす)
ころんだ



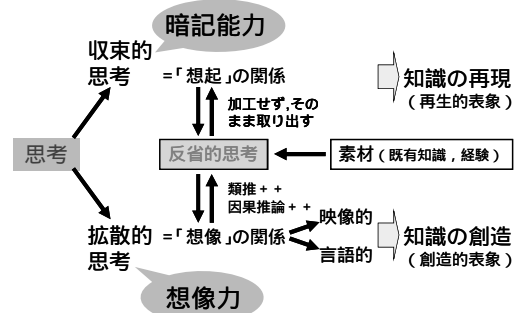
上ばかり見て
おどっていたので、
石ころにつまづいて、
水たまりにしりもちを
ついてしまいました

エーン、エーン、
うさタン、エーン
(顔に手をあて
泣き真似をする)



頭から、水ぬれに
なった。
うさこちゃんは
泣いてしまいました

「暗記能力」と「想像力」の関係



類推(analogy)

類推を働かせて知識を獲得する

類推・・・既有知識と目の前の情報を比較し、差異と共通性を見分ける推論

例、海岸でウニをみつけた2歳児「ボール」と言ってウニを指さしたが触ろうとはしなかった。人は、類推をはたらかせて自分がよく知っていることに関係づけて情報を取り込んでいる。

子どものつばやき

「ゆうあけこあけのかたまりだ！」
3歳男児

「ここで雲をつくってたのか！」
4歳女児

「おかあさんはおばあちゃんから生まれたんでしょ。じゃあ、お父さんはおじいちゃんから生れたの？」
5歳男児

「(白と黒の)パンダはおめでたくない動物なんだね、きっと」
6歳女児

全労済編『最近子供がふともらしたいとおしい“ひと言”は?』
河出書房新社 1998より

語る力の発達

「談話の文法」(物語スキーマ)
談話・文章の時間的展開を構成する

5歳後半～

事件・出来事を語る
起承転結構造
常套句・常套の演出技法

「星を空へ返す方法」 [M.T.5歳10カ月]

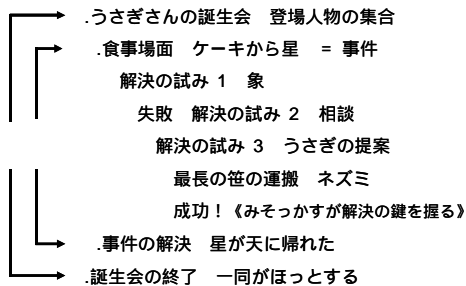
7月15日はうさぎさんの誕生日です。今日は7月15日、うさぎさんの誕生日だから森の動物たちが集まってきました。そして、みんなで食事をしているときにケーキの陰から星が出てきました。星はみんなに言いました。「ぼくね、空からおっこっちゃったの。だからね、ぼくをね、空に返して。」と言ったら、みんなはびっくりしました。「空に返すって?」「そうさ、ぼくは空の星さ。」「星?」と、みんなはびっくりしました。

そこで、象は言いました。「おれにまかせてよ。」と、象はその星を自分の鼻に入れると、勢いよく飛ばしました。それでも星は、おっこってしまいました。そしたら、こんどはみんなで相談をして、うさぎが言いました。「そうだよ、ながーい笹を持ってこようよ。それに星をのせてあげてさ、そしてさ、また、その笹をさ、伸ばしてさ、空までさ、送ってあげるのさ。」とうさぎが言うと、みんなは「そうしよう。」と言って笹をとってきました。

そのなかでも一番笹が長いのをとってきたのはネズミでした。ネズミは、手がゆらゆらになって、すごく長い笹を持ってきました。みんなでそのさきに星をのせると、土の中に埋めて一日待ちました。そうすると、その笹は、1日だというのに、ぐんぐん伸びて空に届きました。そして、星は空に帰ることができました。

そして、その誕生日があわったあと、みんなが、家で空を見ると、キラキラ光ってる、とてもきれいな星がありました。みんなはその光ってる星を、きっと落ちてきた星だと思ったのです。おしまい。

「星を空へ返す方法」エピソード分析



「ウソッコ」と「ホント」の区別?

RQ:子どもは何歳ごろから虚構と現実をいつから区別するようになるのか?

認知や言語の発達とのかかわりはどのようなものか?

e.g., 砂だんごのプレゼント

(加用, 1989)

お砂場で砂団子を作る子どもたち
子ども「おだんご どうぞ」(差し出す)
おとな「ごちそうさま」(パクッと口の中に)

3歳児; 平気で遊びを続ける。

4歳児; びっくりして目をまんまるくしたり、困ったことが起こったと、もじもじしたり、なみだ目になって、うつむいてしまう。

5歳児; 「ホントに食べちゃダメ! ウソっこで食べるマネすんの。お砂ってばっちゃんだ。ママが言ったもん。猫ちゃんがお砂場にオシッコするかもしれないって..」

理由づけや根拠 可逆的操作
因果的推論の手段

理由づけ「なぜなら、...だから」

「夢の中の出来事」が語れるのは何歳頃から?

後の出来事 前の出来事に遡れるか?

5歳後半～ 時間概念の成立

5歳後半～ (内田, 1985)

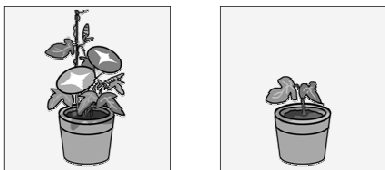
順向条件



逆向条件

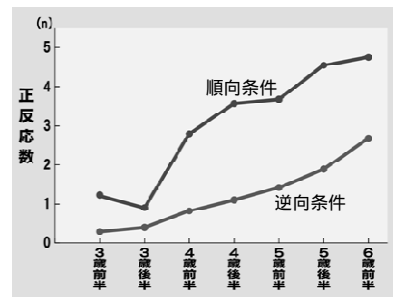


逆向条件

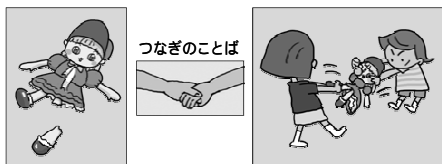


S: 「うーん、ほんとうは芽からアサガオになるんだけど...」
 E: 「そうね、だっこちの絵からは作れない?」
 S: 「うーんと...、アサガオが、小さくなって、芽になった」
 (T. I. 5歳5ヶ月)

正反応数

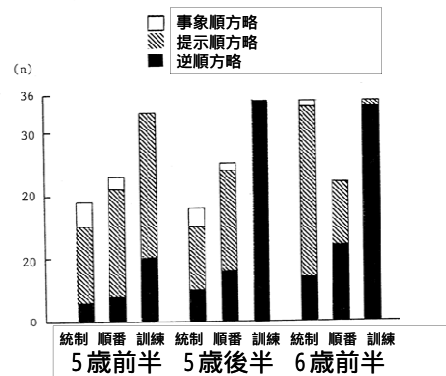


模倣再生の訓練



「だって、さっき、...だから」

訓練後: 逆向条件で用いられた方略



相手の視点に立てるか
— 他人の気持ちがわかるか? —

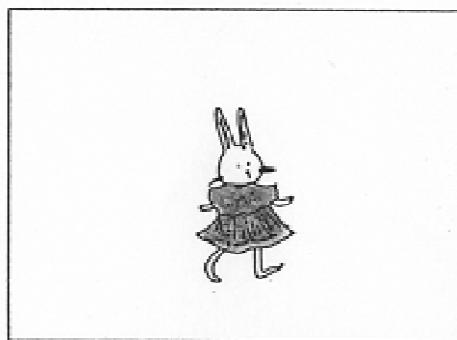
うさこちゃんは、赤い色が嫌いなのだ。

うさこちゃんのお誕生日におばあちゃんが赤いブーツをプレゼントしてくれたんだって。

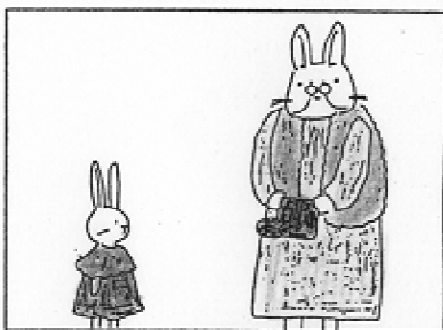
問い; うさこちゃんはどうする? なんて言う?



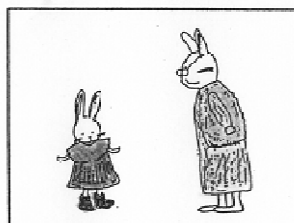
展示ルール (display rule)
人目を気にして振る舞い方を変えられるか?



うさこちゃんは赤い色が嫌いなのだ。



うさこちゃんのお誕生日におばあちゃんが赤いブーツをプレゼントしてくれたんだって。



うさこちゃんは、そのときどうするかしら?
なんて言うかしら?

他人の気持ちが理解できるか?

うさこちゃんは、そのときどうするかしら?
なんて言うかしら?

3歳児 「いらないのだ。
<E: どうして? > 赤きらいなのだ」

5歳児 「喜んでもらう。ありがとうって言う。
おばあちゃんが、せっかく、くれたんだから」



3歳児と5歳児は正反対
“恥ずかしがりや”の4歳児

灰谷健次郎 灰谷健次郎の保育園日記
新潮社、一九九一年

「うさこちゃんはおばあちゃんから考えたのだから、はやく、おはなししてきなさい」
「うさこちゃん、いろいろなおはなしを聞いておぼえたいの。うさこちゃんのおはなしを聞いておしゃべりするよ」
「うさこちゃん、おはなしを聞いておぼえたいの。うさこちゃんのおはなしを聞いておしゃべりするよ」
あるんだから」
(4歳)

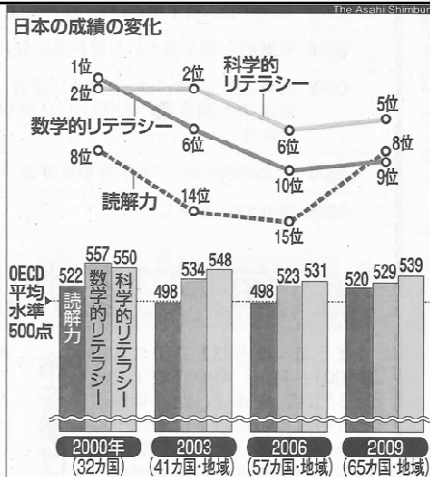
学力格差は幼児期から始まるか？ 幼稚園卒 > 保育所卒は本当？

日本 格差社会の到来

1988年頃 コミュニティの崩壊！

- (1) 塾と学校のダブルスクール化
0歳児保育や駅前保育所、二重保育も出現！
教育だけではなくしつぽまでアウトソーシング
家族・親子・母子コミュニケーションの劣化！
- (2) コンビニや「ほかほか弁当」や「中食業者」の進出
お金さえあれば温かい食べ物が口に入る
(大型冷蔵庫にはレトルト食品で一杯)
- (3) 「男女雇用機会均等法」(1999年 2007年改正)
母親だって自己実現or苦しい家計を助けるため
子どもを保育所代わりに塾に行かせ、お金を
もたせて父親はもちろん母親も遅くまで残業

PISA調査 OECD(経済協力 開発機構)



課題 論理・記述力

1. 国際学力比較調査(PISA調査)
2000年・2003年・2006年・2009年; 高1生
情報を読み取り、論証し、論述する力の欠如
2. 全国学習状況調査
2007年・2008年・2009年; 小6・中3生
基礎的・基本的な学習内容はおおむね理解
課題は…活用力の欠如
知識・技能を活用して、思考し、表現する力に課題がある！
3. 2010年; 課題 = 論理力・記述力改善せず
「幼・保」通園と学力格差 幼 > 保!
これって本当？

学力格差はいつから？

「学力格差は経済格差を反映している」
(教育社会学の知見、マスコミなど)

- RQ: 経済格差は子どもの発達や
親子のコミュニケーションにどんな影響も
もたらしているか？
幼児のリテラシー習得に及ぼす
社会文化的要因の検討
-日韓中越蒙国際比較研究-
(ベネッセ次世代育成研究所の研究助成)

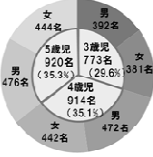
文化の価値づけ

- リテラシー習得の文化装置
音韻的意識を促す遊び
例. しりとりに、グリコ…
- リテラシー習得の個人差・性差・文化差
リテラシー習得へ経済格差の要因は？
・幼児期には何が学ばれるべきか？
・親子のコミュニケーションシステム？

日韓中越蒙比較調査

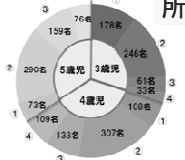
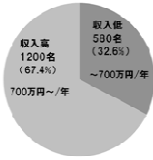
1. 子ども面接調査

……2,607名(3,4,5歳児)



2. 親アンケート調査

……1,780名(子育て世帯の平均総所得 = 691万円)

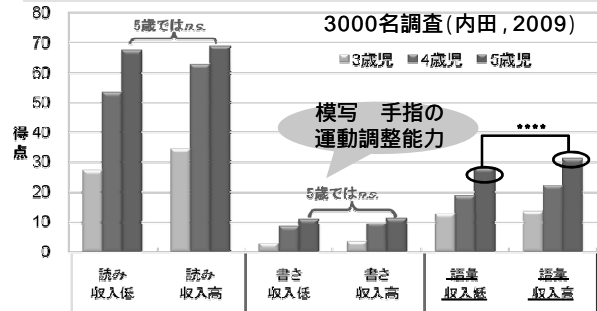


所得のCP=700万円

教育投資額
月5000円未満
5000~2万円
2万~5万円
5万以上

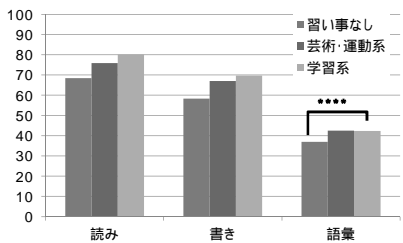
3. 保育者アンケート調査 ……193名

リテラシーの習得に経済格差は影響するか？



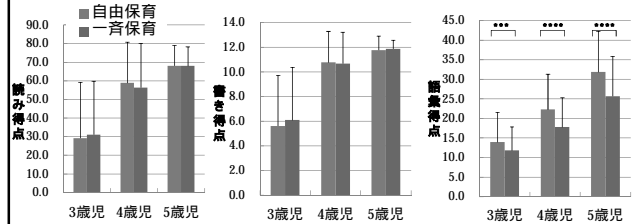
読みと書き = 模写能力においては5歳になると
家庭の収入による差はなくなる。
語彙能力に収入による差が顕在化する(高 > 低)。

習い事の種類と読み・書き・語彙との関連



語彙力; 習い事なし < 習い事あり
(芸術・運動系 学習系)

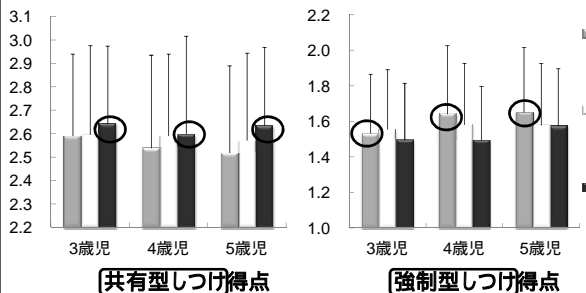
保育形態による語彙力の差



語彙力: 自由保育 > 一斉保育
子ども中心の保育、自由遊びの時間が長い
幼稚園や保育所の子どもの語彙得点が高い

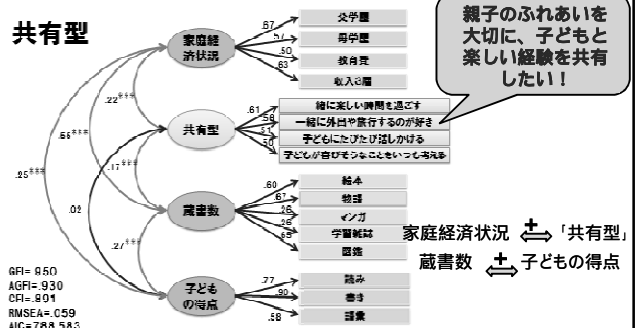
しつけスタイルと語彙能力

共有型しつけ vs. 強制型しつけ

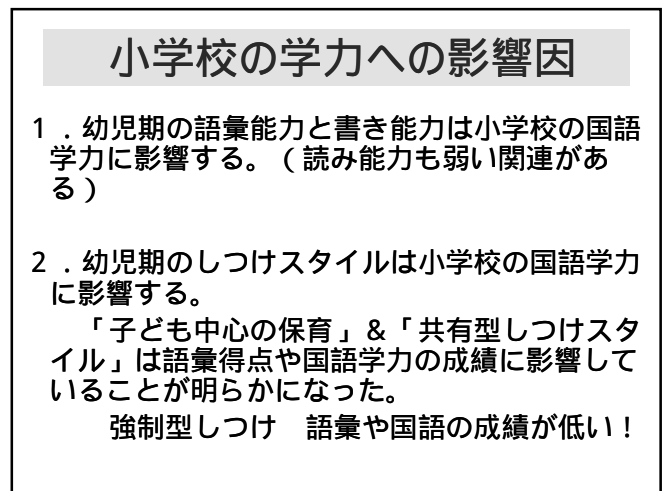
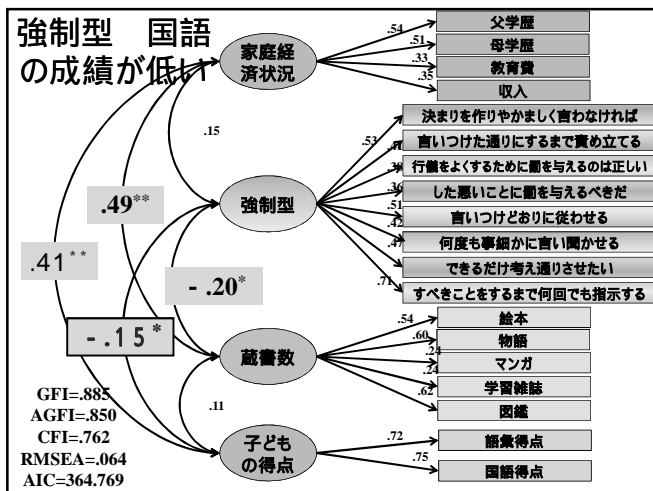
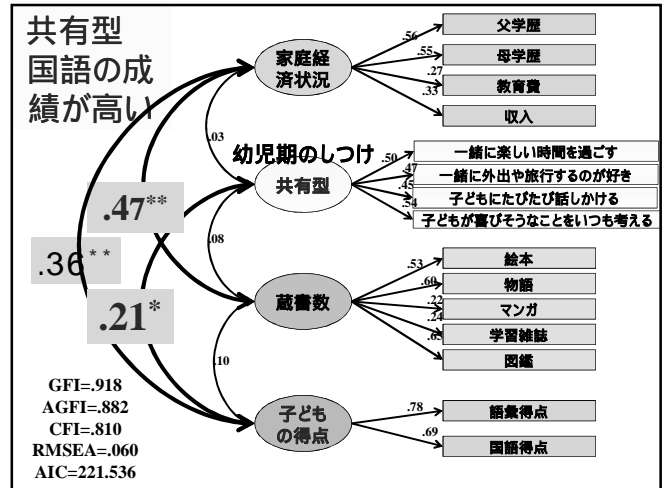
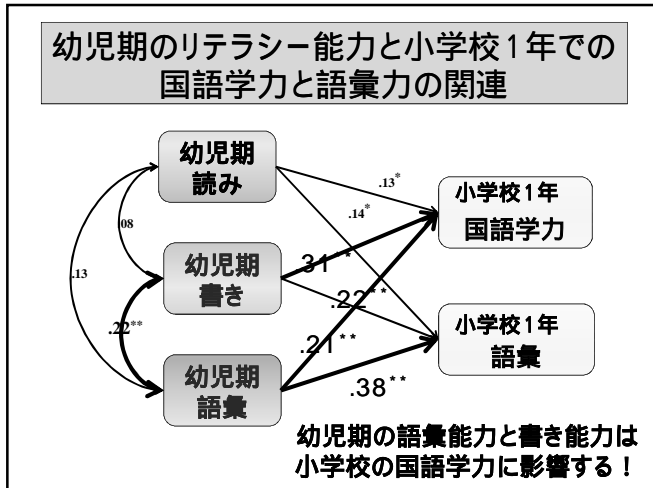
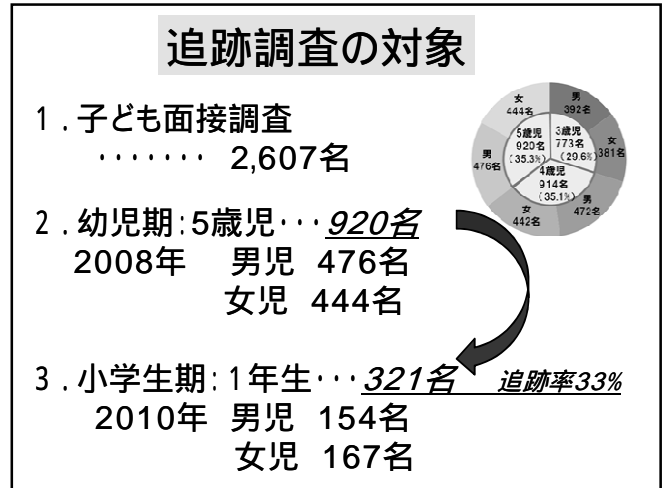
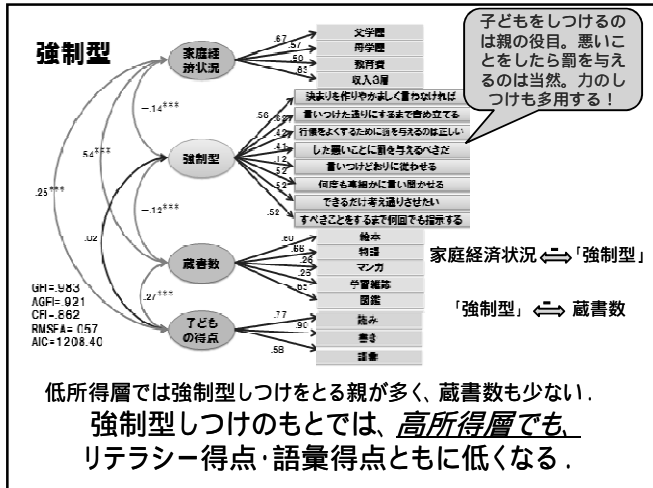


語彙得点が高い子どもは、共有型しつけを受けており、
語彙得点が高い子どもは、強制的しつけを受けている。

共有型



高所得層では蔵書数が多く、共有型しつけが多い。
低所得層でも蔵書数が多いと子どものリテラシー得点が高い。
共有型しつけスタイルをとる親のもとで、子どもの
リテラシー得点・語彙得点とも高くなる。



「小学校の学力に幼児教育格差？」

文科省；幼稚園＞保育所＞未就園

2010年7月28日新聞各紙の報道

「幼児教育の大切さを検証した!」???

これは誤った解釈、あるいは意図的な曲解だ!

幼稚園・保育園の保育の質の違いが小6、中3まで続くとは考えづらい。世帯の所得格差・しつけスタイル(家庭の親子の関わり方)の違いが学力格差につながっているのではないか。

子どもの育て方は
経済格差を是正する鍵
子どもを伸ばす援助・ことばかけ

共有型 vs. 強制型

RQ:母親の働きかけ方の違いの何が
子どもの語彙力に影響するのか?

(高所得層、高学歴、専業主婦)

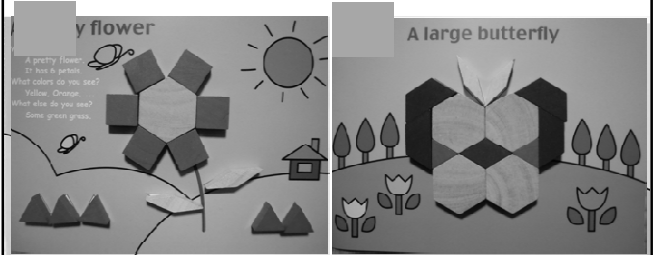
ブロックパズル課題場面(正解や難易度の違いがある)での母子のやりとりを観察した。

絵本の読み聞かせ場面(正解があるわけではない)での母子のやりとりを観察した。

『きつねのおきゃくさま』

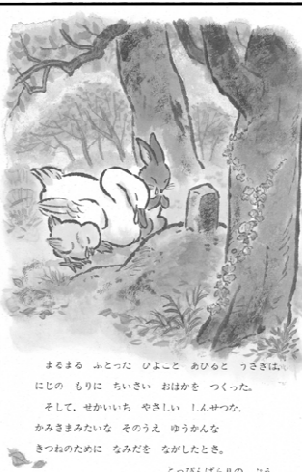
共同の問題解決

- 手続き・材料 色と形が一致した6種類のブロック
課題シート2種類



易しい課題

難しい課題



共有型；
子どもの顔をみている。
子ども「え？きつねさん死んじゃったの？
やさしかったのに、しんせつだったのに。」
母親「そうね、しんせつだったのにね。」
と共感的にサポートする。



強制型；
「とっぴんばらりの ぼう。」
ボタンと本を閉じて、
母親「今のお話はどういうお話だった？
言っごらん」
子どもが間違えると、、、
「え？ママそんなふうには言っていない、
ここ読んでごらん」
子どもに読ませ、「ほらね、間違えて
じゃない、ダメよ、ママのことば
しっかり聞いてないと！」と
勝ち負けの言葉を投げつける。



共有型で、なぜ語彙力が向上するのか？

—絵本共有場面と問題解決場面—

■ 共有型

- ✓ 考える余地を与える
- ✓ (援助的)サポート
- ✓ 子どもに敏感で子どもにあわせて柔軟に調整する
- ✓ 主体的な探索や自律的に考えて行動する

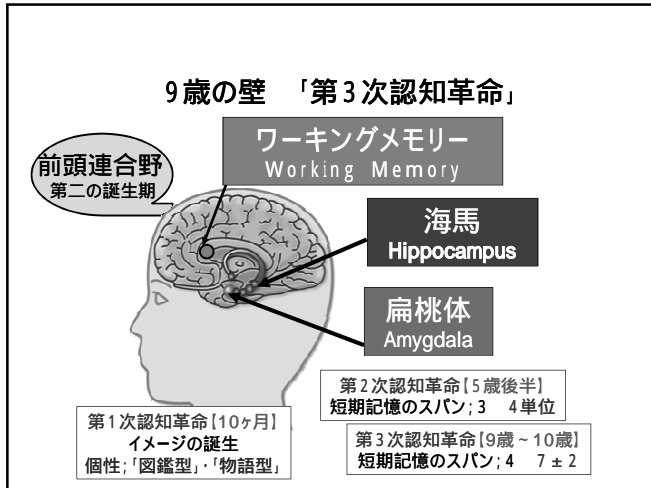
■ 強制型

- ✓ 考える余地を与えない(指示的)トップダウン介入
- ✓ 過度な介入、情緒的サポートの低さ
- ✓ 主体的に探索せず、他律的行動(親の指示を待ち・顔色を見ながら)

語彙力 ↑



↓ 語彙力



叱られながらやった勉強は身につかない

a. 大脳辺縁系 (扁桃体と海馬): 4歳頃

b. 前頭連合野のワーキングメモリー: 5歳後半

× 扁桃体で緊張・不快を感じると

海馬で失敗例が蘇り他のことを考えられなくなる
冷や汗が出たり頭が真っ白になる

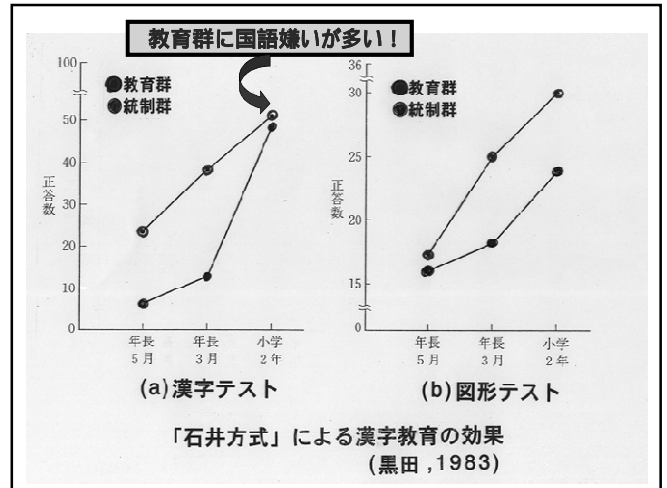
扁桃体が快 (面白い・楽しい) を感じると

ワーキングメモリーに情報伝達物質が送られ海馬を活性化し、情報を記憶貯蔵庫にどんどん蓄えることができる 「好きこそものの上手」

「50の文字を覚えるよりも
100のなんだろ? 育てたい」

1. 自分から本当にやろうとしないと自分の力にはならない。
2. 自分で関心をもてばあっという間に習得してしまう。
3. 文字は子どもの関心の網の目にひっかかってくるに過ぎない。肝心なのは文字が書けるかどうかではなく、文字で表現したくなるような内面の育ちである。

創造的想像力を育む



子どもを伸ばす援助・ことばかけ

1. 子どもに寄り添う 安全基地 < 信頼関係 >
2. その子自身の進歩を認め誉める 他児と比べない。
3. 「生き字引」のように余すところなく定義を与えない。
4. 「裁判官」のように「判決」をくたさない 禁止や命令ではなく「提案」を!
5. 子ども自身が考え、判断する余地を残すこと。自律的思考力 そして 創造的想像力!

「これにもお豆がなるの?」

渡辺万次郎さんとお孫さん(5歳, 4歳)のやり取り

「私はかつて幼稚園の二児を近郊に伴った。彼らは「みやこぐさ」の花に注意を引かれたが、その名を問うほかに能がなかった。当時、子どもの菜園には、同じ豆科の「えんどう」の花が咲いていたので、私は名を教えるかわりに、その花をもって帰り、おうちでそれによく似た花を見出すようにと指導した。彼らが帰宅後、両者の類似を見出した時には、小さいながらも自力に基づく新発見の喜びに燃えた。やがて一人は「みやこぐさ」について、「これにもお豆がなるの?」と尋ねた。それは誰にも教えられない、独創的な質問であった。私はそれにも答えず、次の日曜に彼らに現場で確かめることを提案した。次の日曜に彼らがそこに小さな「お豆」を見出したとき、そこには自分の推理の当たった喜びがあった。秋がきた。庭には萩の花が咲いた。彼らは萩にも豆のなることを予測した。彼らは過去の経験から、いかなる花に豆がなるかを自主的に知り、その推論を独創的にまだ見ぬ世界に及ぼしたのである。」

(高橋金三郎「授業と科学」 麦書房, pp.149-150. 渡辺万次郎「理科の教育」8, p.11, 1960より)